

【授業研究1】 小学校第6学年「桃花片」

(1) 授業研究にあたって

「見通しをもって読み解く国語科指導法」という研究主題のもと、小学校では、見通しとしてのめあて意識をもつために、学習課題作りを位置づけた。また、読み解く見通しとしてのカギは、主に人物描写に求めた。また、カギをもとに、書く活動を多く取り入れることによって読み解きを進めた。さらに、自己評価を活用して、課題や読み解く方法を修正して主体的な学習が展開できるような実践を試みた。次はその学習指導案である。

第6学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 桃花片
- 2 目標 (省略)
- 3 単元について (省略)
- 4 指導計画 (13時間取扱い) ※紙面の都合上指導計画は簡略にしてある。
  - 第1次 全文を読んで感想をまとめる。
  - 第2次 課題を作り、解決の方法について話し合う。
    - 第1時 感想をもとに、各自で課題を作る。
    - 第2時 全体の共通課題を作る。
    - 第3時 課題解決の方法を話し合う。
  - 第3次 課題を追究する。
    - 第1時 美しいものを求める年老いた楊の気持ちを想像する。
    - 第2時 幼い日の楊の気持ちを読み取る。
    - 第3時 父の仕事に疑問をもちながらも、仕事に励む楊の気持ちを読み取る。
    - 第4時 美しいものを追究する楊の気持ちを読み取る。 (本時)
    - 第5時 焦りを感じる楊の気持ちを読み取る。
    - 第6時 名人と呼ばれながらも、それを疑う楊の気持ちを読み取る。

5 本時の指導

- (1) 目標 美しいものを追究する楊の焼き物に対する考えを読み取り、それに対する感想をまとめることができる。
- (2) 準備・資料 評価カード
- (3) 展開

※は評価

	学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 評 価
課題確認	1 本時の学習について話し合う。 楊の焼き物に対する考えを読み取ろう。	・前時の学習の中での楊のいう「もっといいもの」についての話し合いを想起して、本時の課題解決への意欲を高める。 ・前時までの各自の学習を自己評価カードをもとに振り返り、無理のない方法を決めるように助言する。 ・新しく考えた方法があれば発表を促し、他の子供の参考にもできるようにする。
読み解きの手掛りをまとめる	2 課題解決の方法の見通しをまとめる。 (予想される方法) ア 楊の言動を追究する。 イ 父の楊に対する言動を追究する。 ウ 楊と父との言動を比べる。 3 自分の方で課題を追究する。 (活動の流れ) ア 楊の言動が表現されている部分を書き出す。 焼き物に対する楊の考えを想像する。 イ 父の楊に対する言動の表現されている部分を書き出す。 父の焼き物に対する考えを想像する。 焼き物に対する楊の考えを想像する。 ウ 楊の言動を書き出す。ー父の言動を書き出す。 焼き物に対する楊の考 ー父の焼き物に対する考えを想像する。	※本時の課題を解決するための方法の見通しをまとめることができたか。(話し合い、ノート) ・方法を決められない子供には、前時までの活動及び自己評価を振り返って、より進めやすい方法を決めるよう助言する。 ・前時の父に対する楊の気持ちを踏まえて、本時の学習を進めるよう支援したい。 ・アを選び、楊の考えを想像する活動でつまづいている場合は、「ただの職人」という言葉に着目させ、それに対するものとして楊が焼き物に求めているものを考えられるようにしたい。 ・イを選び、父の言動から楊の考えを想像することができない場合は、父の言動の裏返しのものとして楊の考えがあることに気付くように助言したい。 ・ウを選んでいる場合は、楊と父との言動を場面の流れにしたがって比較しながら整理することを通して、両者の焼き物に対する考えを比べているか見守りたい。
書く1		・自分の活動が終わったら、友達と話し合いをしながら、考えを深められるようにしていく。 ・話し合いとともに、音読を通して、自分の考えを深める活動も工夫できるよう支援したい。 ・楊と父の焼き物に対する考え方について、自分の生活を踏まえて話し合い、楊の考えを明確にしていくよう助言したい。 ※焼き物に対する楊の考えを読み取ることができたか。(ノート・話し合い)
話し合い	4 全体で話し合い、楊の考え方に対する感想をまとめる。 (1) 楊の考えについて話し合う。 (2) 楊の考えに対して感想を書く。	・楊の考えを支持するか、批判するか、立場を明確にして感想をまとめるよう助言する。
書く2	5 本時の学習を振り返り、次時の学習課題の解決方法を考える。 (1) 本時の学習について自己評価する。 (2) 次時の学習の見通しを考える。	・評価カードを使って、本時の自分の活動を振り返ることと次時の学習課題について話し合い、次時の学習課題を解決する方法についての見通しをまとめるようにする。
自己評価		

## (2) 見通しとしての学習課題作り

児童生徒の主体的な学習活動を進めるために、子供自身が自らの疑問をもとに問題を発見し、自分の力で読み進め、解決していくようにすることは大きな意義をもっている。子供は、文章を初めて読んだ時に、人物の行動の変化や心の動きに興味・関心を示して読み取ろうと考える。そこで、子供自らが読み解いていくためには、どんなところに着目し、どんな方法で読み進めていくかなど、単元全体を子供自身が見通すことが重要であろう。その一つの方法として学習課題作りを取り入れた指導計画を立てて実践してみた。

### ア 個人からグループへ、そして全体へ練り上げる

図7のAで示したように、個人で考えた学習課題をもとに学級全体で練り上げていく方法である。この方法で取り組むことによって、子供は文章全体の組み立てや登場人物の気持ちの大きな変化の流れをつかむことができる。また、共通課題としてみんなで意見を出し合ったり聞き合ったりして作った学習課題であったので、一人一人にも十分に学習課題の意味が理解できた。子供の興味・関心を生かす学習課題作りの過程では、教師側の意図と異なる学習課題が出たり、個人の学習課題が練り上げの段階で埋もれてしまったりすることがある。教師側の意図するものと異なる学習課題については、その場ですぐに修正してしまうのではなく、読み進めていくなかで、読みの流れから次の時間の読みの学習課題をもう一度考えてみる時間を確保するなどの支援の仕方が考えられる。また、全体では取り上げられなかった個人の学習課題については、学習課題作りの初期の段階で消してしまうのではなく、読み進めていくなかで解決できるものはその都度解決していったり、まとめの段階で考えてみたりして大切にしてきた。

### イ 個人の学習課題をもとにグループでまとめる

図7のBの方法である。この方法も基本的にはAの方法と同じであるが、Aの方法の問題点として学習課題作りに時間がかかりすぎてしまう点をBの方法で改善してみた。この方法は、一人一人が考えた学習課題を短冊カードに書いて、場面ごとに集め、それらをもとに一つの場面を一つのグループが担当して学級の学習課題を作り上げていく方法である。

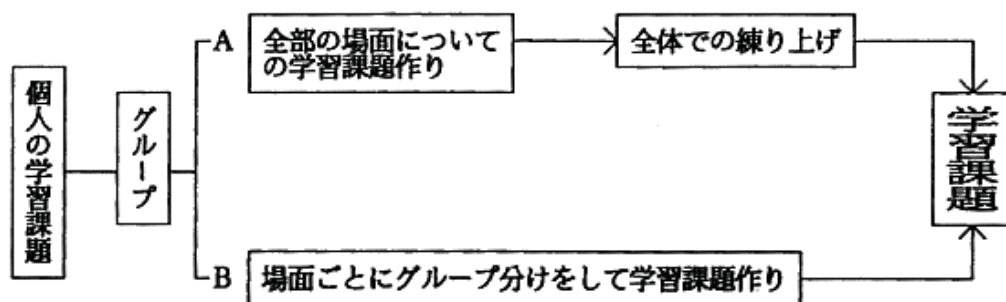


図7 学習課題作りの過程

## (3) 読み解く方法

### ア 読み解くカギのもたせ方

作り上げられた学習課題をもとに、その学習課題を解決するための糸口となるカギをもつことは、子供が主体的な読みを行う上で重要である。さらに、このカギを子供が既習の学習経験から見つけだすことができるならば、子供の学習意欲は大いに高まることが期待できる。

### ア) 今までの学習経験から

今回取り扱う教材「桃花片」の「理解」における中心となる目標は、「楊及び父の考え方

や気持ちが表現されている部分に注意して読み味わうことができる。」ということであると考え  
 るが、この目標は、『小学校学習指導書国語編』の第6学年の「B理解」の内容の中の「カ 優  
 れた描写や叙述を味わいながら読むこと。」という項目に基づくものである。子供の既習経験を  
 把握するために、この項目の第1学年からの系統を整理してみると次のようになる。

- 第1学年 オ 場面の様子を想像しながら読むこと。
- 第2学年 カ 人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読むこと。
- 第3学年 カ 人物の性格や場面の情景を想像しながら読むこと。
- 第4学年 カ 人物の気持ちの変化や場面の移りかわりを想像しながら読むこと。
- 第5学年 オ 人物の気持ちや場面の情景の叙述や描写を味わいながら読むこと。
- 第6学年 カ 優れた描写や叙述を味わいながら読むこと。

この指導の流れをみると、子供はこれまでの物語の読み取りにおいて、「人物の気持ちや性格  
 及び情景が表現されている叙述」を中心に読みを進めてきているということができる。

(イ) 子供の読みの意識から

授業研究に際して実施した対象児の意識調査の結果をみると、子供は、物語文の読み取りにお  
 いて、「人物の性格や気持ちを読み取ること。」を大事なこととして答えており、そのために注意  
 することとして、「人物の行動・会話」及び「気持ちの変化」を挙げている。このような結果が  
 出た背景には、子供の読みの意識が「人物」に集中するということが考えられる。

以上のことを踏まえた上で、「桃花片」の学習では、次の読み解きの観点を用意して進めた。

- 人物の気持ちや考えが表現されている叙述から
  - ・一人の人物の行動や会話の叙述から気持ちや考えを読み取る。
  - ・二人の人物の行動や会話の叙述を比較することを通して気持ちや考えを読み取る。
- 情景の描かれている叙述から
  - ・情景の描写を通して、場面のイメージの想像を深める。
  - ・情景の描写を通して、人物の気持ちや考えを想像する。

これらの中で、子供が意識として強く持っている「人物の描写」が中心的な読み解きの観点と  
 して予想されるが、「情景の描写」にも気付くよう支援していきたいと考えた。

実際の授業の中で子供が押さえた読み解きの観点を場面ごとに整理してみると、資料1のよう  
 な結果になった。見通しの段階においては、「情景の描かれている叙述」から読みの観点を挙げ  
 たものはいずれの場面においても見られなかったが、実際の読みの中では「情景の描かれている  
 叙述」を通して「人物の気持ち」を読み取ろうとする姿が少しずつ見られた。そのような子供に  
 対しては、評価の際にそのよさを認めることを心掛け、「情景描写」にも少しずつ意識が向けら  
 れるように支援した。

資料1 子供が試みた読み解きの観点

方 法	1の場面	2の場面	3の場面	4の場面	5の場面	6の場面	7の場面
楊の行動・会話を通して	35人	19人	14人	10人	9人	35人	35人
父の行動・会話を通して		1人	2人	1人	0人		
楊と父の行動・会話を通して		15人	19人	24人	26人		

(注 1, 6, 7の場面では、父は直接登場しない。) (学習ノートより, 35人調査)

イ 書くことを通して読み解く

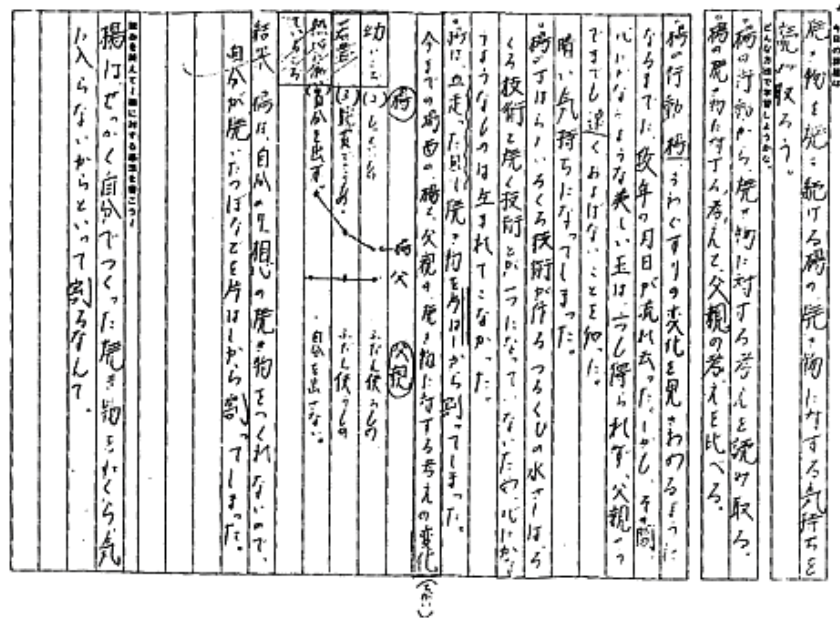
読み解くカギに基づいての各場面での読み解きは、「書く」活動を通して各自が学習を進めていくようにした。文章の中で自分の読み解きのために重要だと考える部分を見つけて抜き出し、それについて自分なりに読み取ったことを、表、図、吹き出し等を使って、自分なりに工夫してノートにまとめていく。このような活動を通して、自分で設定した手掛かりに基づいた自分なりの読みを整理しながら学習を進めることができると考えたからである。また、「書く」活動は、子供一人一人の学習を同時に保証することができ、子供が自分のペースで学習を進めることができることも、主体的な読み解きを進める上で有効であると考えた。さらに、「書いた」ものは記録として残るので、子供自身の自己評価及び教師側の評価、支援に役立つものといえる。

実際の1時限の学習の中での「書く」活動は、学習指導案の展開例に示したように「書く1」「書く2」と2度の書く活動を話し合い活動の前後に取り入れることを通して、各自の読み解きの修正、深化が図れるように配慮した。

資料2は、子供の学習ノートの例であるが、子供の活動に対しては、次のような点を中心に支援を行っていった。

資料2 子供のノート

- ・読み解くカギに基づいて読み取りに重要だと考える部分を見つけて、抜き出す。
- ・読み取ったことを表や心情曲線や吹き出し等に工夫して、分かりやすく整理して書く。
- ・常に課題を意識し、課題からそれないように読み取りを進め、各自の読みの最後には、学習課題に対する読みの結果を書く。



ウ 見通しと自己評価

自己評価のねらいは大きく分けて二つあると考えられる。一つは、子供自身が自分のよさに気付く、さらに伸びていこうとする力を育てていくことである。二つは、自己評価を通して子供の到達度や意欲を探り、支援の方法を見いだすことである。今回は、学習の見通しをもって学習を進めた後、自己解決を図ってみてどんなところがよく読み取れたのか、そして、次の時間の学習課題に対して自分はどのような見通しをもって読み進めていきたいかということを中心に自己評価ができるように考えて支援した。自己評価の結果を見てみると、読み取りを進めていくにつれて子供の見通しのもち方が次第に具体的になり、読み取りに対する自信を深め、さらに次の読み取りへの意欲が表れていったことがうかがえる。資料3は、その一例であるが、学習後の感想の中に「裏の気持ちを考えられなかった。」とある。これは、本文の中には表現されていなかった人物の気持ちを発表した友達の意見を聞いたことで、自分の改善すべき点を見いだした例である。

単元の学習を終えてから自己評価に対する子供の感想を見ると、自己評価をすることによって「毎時間自分がどのように見通しをもって読み進めてきたかがよく分かった。」「学習の仕方が少しずつ身に付いてき

### 資料3 自己評価例

ているのが分かった。」

「橋花片」③

学習の足あと

S・M

「前の時間の反省をもとに学習ができたので、同じ失敗をしないでですんだ。」等、子供にとって学習を進めていく上で効果的であったことが分かる。

今日の学習を振り返ろう。	<input checked="" type="radio"/> 大変よくできた <input type="radio"/> だいたいできた <input type="radio"/> もう少しだった	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	今日の授業を終えての感想
自分の意見を発表することができたか。	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	橋と父親の気持ちのちがいをくらべながら、たのてしても理解しやすかった。でも、橋と父親の
自分の力で読み取ることができたか。	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	裏の気持ちをあと考えらなれたところが
読み取るための見通しをもつことができたか。	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	しても残念だった
次の時間のめあてについての、自分の考えや気持ち			橋と父親の言葉から気持ちを考えたい。

### エ 考 察

子供が見通しをもって読み解いていけるような指導法について、学習課題作りから読み解き、自己評価という観点から実践を進めた結果、次のような考察を見いだすことができた。まず、学習課題作りについては、単元全体の学習を見通すという意味から取り組むようにしたが、子供は、学習課題作りを通して単元全体をどのように読み進めていったらよいのかという意識をもつことができた。さらに、それは自分で新たな読みの目標をもって読み取ろうとする意欲へとつながっていった。また、実際に読み進めていく中で、子供から「自分たちの作った学習課題がこれよかったのかどうか。」という意見が出るなど、学習課題を自分たちのものとして意識した読み進めもみられた。反面、学習課題作りに時間をかけ過ぎてしまったり、時間的に十分生かしきれなかったりする場面も見られ、指導計画の中における学習課題作りの位置付けや時間配分を十分考慮して取り組みたいと考える。学習課題を一つにまとめるだけでなく、ある程度練り上げてできた学習課題をいくつか提示して、その中から選択して学習を進めていく方法についても実践を深めていきたい。

次に、読み解く方法として、自ら読み進めていく際に、子供に読み解くためのカギをもって取り組むように支援し、学習を進めた結果、最初のころはカギからそれた読み取りをする子供も見られた。しかし、互いの読み取りの結果を比較したり、工夫してあるノートを掲示したりすることを繰り返したところ、より具体的な手掛かりをカギとして見いだせるようになってきた。そして、内容の違いはあるが、自分なりの見通しをもって学習しようという姿勢が学級全体に見られるようになった。

さらに、自己評価活動を取り入れ、学習課題に対する自分の見通しのもち方についての反省及び次の学習への取り組み方を考える活動を毎時間の学習の最後に行った。その結果、これまでの自分の学習のよかった点や読み取りの修正すべき点などを見いだすことができ、次の学習への見通しと同時に自力で読み解こうとする意欲を引き出すことにもつながった。

学習課題作り→見通しをもった読み解き→自己評価、これら一連の学習活動に繰り返し取り組んだことによって、子供は、意欲的に自力解決を図ろうとしていた。今後も、これらの実践の反省を踏まえて、他の指導方法による見通しのもたせ方を実践していきたい。